MAENAN SAH Journal Vol.30

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

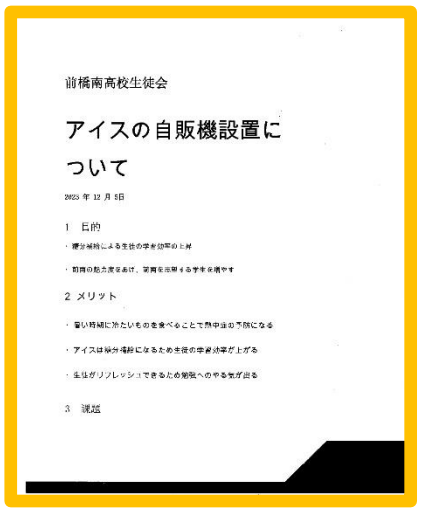
Feb. 1st, 2024

『生徒会』による『アイスクリームの自動販売機』の導入！

『SAH Journal Vol.17』で紹介のあったとおり、石川県の大聖寺高校生徒会本部役員が「学校の魅力度」を上げるために、アイスクリームの自動販売機の導入をめぐり、何度も校長先生や業者とやり取りを進め、昨年８月に導入することができました。大聖寺高校の取組や群馬県内のいくつかの高校でもアイスクリームの自動販売機を導入していることを知り、さらに SAH の一環として生徒会本部役員の中で「アイスクリーム自動販売機導入チーム」（以下アイス自販チーム）を作り、前南でもアイスクリームの自動販売機導入プロジェクトを立ち上げました。その準備段階として、企画の立案、校長先生等への企画の説明、生徒へのアンケート、業者とのやり取り、他校への実態調査など多岐にわたります！以下に、その取り組みをご紹介します！（生徒会顧問　原澤　正樹）

１．企画説明会①

＜企画説明会①の様子＞



前橋南高校生徒会

アイスの自販機設置について

2023 年 12 月 8日

1　目的

・糖分補給による生徒の学習効率の上昇

・前南の魅力度を高め、前南を誇れる学生を増やす

2 メリット

・暑い時期に冷たいものを食べることで熱中症の予防になる

・アイスは糖分補給になるため生徒の学習効率が上がる

・生徒がリフレッシュできるため勉強へのやる気が出る

3　課題

＜企画書第一案＞

１２月初旬に、生徒会役員のアイス自販チームで企画提案書を作成し、校長先生・教頭先生・事務長に対して『前南でのアイスクリーム自動販売機の導入に向けて』の企画書のプレゼンテーションを行いました。企画書に沿って、＜目的＞・＜導入する上でのメリット＞・＜課題＞・＜前南においてのルール＞について生徒会から説明がありました。その説明を受けた後、校長先生・教頭先生から＜目的＞や＜ルール＞において不明瞭な部分が多い点、例えば「なぜアイスクリームの自販機を導入することで前南の魅力度アップにつながるのか」など具体性に欠けている点を指摘されました。また、事務長からは「設置場所」・「販売価格の設定」・「ゴミ処理」・「業者の選定」などについて聞かれた際には、具体的に答えることができず、下調べの甘さを痛感しました。校長先生・教頭先生・事務長からのアドバイスを受け、プレゼンテーションの資料だけでなく、さらなる調査が必要だと感じ、再度準備することになりました。

２．生徒へのアンケート実施＆業者との打ち合わせ＆富岡高校へのインタビュー

企画説明会①後に、前南生の意見調査のためのアンケートを実施しました。「学校にアイスクリームの自販機があった場合利用したいか」という質問には83%以上の生徒が賛同する結果が分かりました。また、アイスクリームの自動販売機の導入について詳しい情報を得るために、１２月２５日に江崎グリコ株式会社の小出さんに来ていただき、商品について詳しく説明をしていただきました。企画説明会①で答えることのできなかったこと（価格・商品・ゴミ問題・設置場所）について、生徒会で確認事項をまとめて、業者の方に積極的に質問する姿が見受けられました。設置場所については、生徒会の考えだけでなく、業者の方からも提案があり、非常に有益な機会となりました。さらに、他校の現状を知り、プレゼンテーションでの具体例の材料にすべく、県内ですでにアイスクリームの自動販売機を導入している富岡高校へ電話でインタビューを行いました。富岡高校の生徒会顧問の山本先生に対して、富岡高校にアイスクリームの自動販売機を導入してからの生徒・職員の反応、ルール作成、月間の利用本数について伺いました。山本先生から生徒会が主体となって導入に向けて活動していることを伺い、「自分たちにできることがあれば何でも協力しますので頑張ってください」と生徒会への激励の言葉もかけていただきました。アンケート・業者の方の説明・他校の状況を聞け、再度プレゼンに向けて進み始めます。

＜設置場所を検討する様子＞

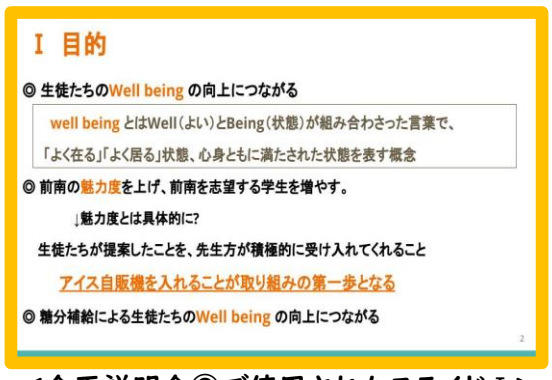
＜業者との打ち合わせ＞

＜富岡高校＞

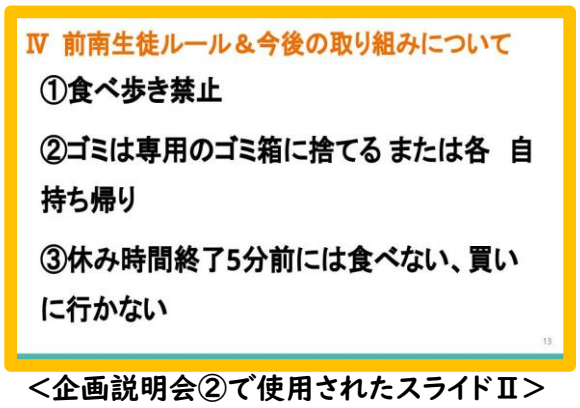
＜富岡高校へ電話インタビュー＞

３．企画説明会②

＜企画説明会②＞



＜企画説明会②で使用されたスライドⅠ＞



＜企画説明会②で使用されたスライドⅡ＞

1/9 に企画説明会②にて校長先生・教頭先生・事務長へアイス自販チームによるプレゼンテーションが行われました。前回指摘していただいた自動販売機を導入する＜目的＞を整理し、さらに業者とのやり取りや富岡高校へのインタビューで得た情報を駆使し発表を行うことができました。校長先生・教頭先生・事務長から企画説明会①で改善すべきところが改善され、プレゼンテーションの質が上がっているという言葉をいただくことができました。校長先生からは「生徒会の自主的な取組を職員にも知ってもらいたい」という考えを聞き、全職員に対するプレゼンテーションを行うことが決まりました。プレゼンテーション資料について教頭先生から、＜導入した後の管理方法＞についてより具体的にする必要があるというご指摘をいただき、全職員へのプレゼンテーションまで再度準備を行いました。

３．職員への企画説明会・担当生徒の感想

＜職員への企画説明の様子＞

1/17 の昼休みにアイス自販チームによる全職員へのプレゼンテーションが行われました。教頭先生から指摘があった＜導入した後の管理方法＞について生徒会としてできることを考え、資料の再作成をし、プレゼンテーションに臨みました。限られた時間で簡潔にまとめ、これまでの取組を知っていただくことができました。発表後に質疑応答の時間を取ると、何人かの先生方からは「ゴミ問題」「管理方法」などの質問がありました。アイス自販チームが今まで調べたことから質問に答えましたが、職員の前で発表するという緊張もあり、答えに窮する場面もありました。しかし、新たな課題発見、そして先生方も真剣にプレゼンテーションを聞いてくれた証だと感じることもできました。この取組を通して、生徒たちはアイスクリームの自動販売機を導入したら終了ではなく、導入した後が大切だと感じたはずです。これからもさまざまな壁にぶつかると思いますが、自分たちで考え、仲間とともに行動していきましょう！最後にアイス自販チームによる今回の取り組みについての感想を紹介します。

アイスの自販機の導入に向けて最初は手探りでなかなか上手くいきませんでしたが、後輩たちの努力もあり段々とプレゼンの質は上がっていきました。念入りな下調べと業者の方との話し合いを重ねて準備をしても、本番になると新しい課題や疑問点が見つかる。これの繰り返しで試行錯誤しながら先生方へのプレゼンを行っていると、先が見えなくて心が折れそうになることもありました。しかし努力を見ていてくださる先生方や生徒会の仲間たちに励まされ、前向きに取り組めました。この企画を通して、疑問や意見にしっかりとした根拠を持って柔軟に答える力や目標に向かい最後まで努力を積み重ねる力がついたと感じています。また、生徒主体の企画には大きな責任が伴うことを学びました。生徒の提案を全て受け入れるのではなく、実現するために生徒が責任を持って尽力することが真の生徒主体であり、それができる環境はかけがえのないものだと私は感じます。（生徒会本部役員　２年　関　凜音）

実際に見たこと、聞いたことを分かりやすく要点をまとめ、自販機の魅力がどの先生にも伝わるようなスライドをつくろうと努力しました。ただ、１枚のスライドに沢山の情報を詰め込みすぎて、見る資料ではなく、読む資料になってしまったことが反省点だと感じました。けれど、腰高さんと放課後や休日、家でもそれぞれ協力し、「あーだ、こーだ」言いながら、プレゼンの直前まで試行錯誤し、やっとのことで完成したこのスライドを沢山の先生方に発表し、届けられたことがとても嬉しいです。自分たちが作ったスライドや発表を通して、私たちの思いや考えなどが伝わり、何か響くものがあれば良いなと思いました。（生徒会本部役員　１年　小此木　いろは）

初めての試みで、最初は何から手をつけていいのか分からず話し合いが中心でした。実際に業者さんとのやり取りや現在アイスの自販機を設置している高校へのインタビュー、プレゼンのスライド作成などの行動を始めた時、本当に私達がアイスの自販機を設置しようとしているんだと実感しました。同時に大きな責任感も生まれ、とても緊張していました。この取組は、目標を成し遂げるために努力を続けるという点で私自身を成長させてくれたと感じています。一人一人意見が違うため大変な面もありましたが、生徒会の仲間や先生方、協力してくれた様々な方がいてくれたおかげで進み続けられたと感じでいます。感謝しかありません！何より、私達のことを陰ながら応援してくれている人達がいることを知れたことがこれからの活力になりました。＜生徒会本部役員　１年　腰高　紗依＞

先生方からの質疑応答で「先生方目線の心配事」を生徒たちは知ることができました。生徒たちが言っているように「導入したあとの責任」が自分たちの卒業後にも続くことを知ったはずです。未来のことまで責任を負うことはできませんが、生徒たちで「受け継いでいく姿勢」を示すことが重要だと考えます。さまざまな問題を解決し、困難を乗り越え、導入された日に食べるアイスの味を、生徒たちは一生忘れることはないはずです。大人になっても食べる度に思い出すことでしょう。たかがアイス、されどアイスです。教頭　星野　亨

★校長より★

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」。聞いたことがありますか。山本五十六氏の名言で、教育における４段階法の一部です。「なぜアイスなの？」「無いと駄目なものなの？」「健康への影響は？」「維持管理は？」等、様々な意見や課題があると思います。生徒達の感想やプレゼンを見ると、「企画実現には大きな責任を伴う」「今を過ごすだけでなく、この先に継承していくことが大切」と気づいたようです。生徒達に任せてみましょう。先生方、生徒が間違えたら正していきましょう。　校長　関根　正弘